

菅野仁著 『ジンメル つながりの哲学』(日本放送出版協会)

菅野仁著、2003年4月30日刊、NHK ブックス。

社会になんとか疎外感を抱くことはないか。

自分の居場所などないと思えたり、自由に生きることを阻む檻のように感じたり……しかし、社会はあらかじめ存在するのではなく、人と人の日々のコミュニケーション=相互作用の集積から生まれるもの、そう考えれば、おのずと社会との関係の結び方が見えてくる。

そして、「私から社会へ」を考えることは“ほんとうの自分”を振り返ることにつながる。個と社会の問題にこだわり、よりよく生きる道を模索したジンメル思想を現在を読み解くツールとして捉え直す、気鋭の社会学者によるスリリングな試み。

目次

序章 私の社会学体験 ジンメルとの出会い

第1章 「ジンメル」とはだれか？ 相互作用論的社会観の特徴

第2章 社会をどこから見るか

第3章 社会学は何を問題としてきたのか？

第4章 社会の成り立ちと「ほんとうの私」との関係

第5章 「秘密」とは、コミュニケーションを拒否した態度か？ 他者との「距離」をどうとるのか

第6章 「闘争」がダイナミックな人間関係を作る

第7章 貨幣の“現象学” “私から社会へ” つながるメディアとして

第8章 ハイ・モダニティとしての現代 人間関係の相互性を時代とともに考える

終章 “私から社会へ”のルート探し “根性なしの社会学”からの出発

書評

- ・濱日出夫氏(慶應義塾大学文学部教授), 2004年3月, 『ジンメル研究会会報』.
- ・苅谷剛彦氏(東京大学大学院教育学研究科教授), 2003年6月1日, 『朝日新聞』朝刊.